

高知県感染症発生動向調査（週報）

2017年 第10週 （3月6日～3月12日）

★お知らせ

○インフルエンザに気を付けて！

高知県全域で注意報値である10.0を超えています。

定点医療機関当たりの報告数は第9週の14.73から第10週は10.00と減少しました。

須崎、安芸では急減、中央西、高知市、中央東で減少と全域で報告数は減少しましたが、県全域と幡多、中央西では引き続き注意報値を超えていることから注意が必要です。

迅速検査ではインフルエンザA型が97.46%、B型2.54%でした。

学校等における集団発生の報告数も減少し、学年閉鎖の報告が1件となっています。

全国でも定点医療機関当たりの報告数は第8週の16.87から第9週13.55と減少しています。

国内のインフルエンザウイルスの検出状況は、直近の5週間（2017年第5～9週）ではAH3亜型の検出割合が最も多く90.81%、次いでB（ビクトリア系統）が4.75%、B（山形系統）3.33%、AH1pdm09が0.95%、B（系統不明）が0.16%の順でした。

県内におけるインフルエンザの報告数はピーク時（第5週：50.60件/定点）の約1/5に減少しましたが、流行は続いていますので、外出後の手洗い等の感染予防を心がけましょう。

症状がある方は咳エチケットを心がけ、早めに医療機関を受診しましょう。また、適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人ごみを避けるなどの対策も感染予防には有効です。

高知県の保健所別の定点当たり報告数と警報・注意報レベル状況（2017年第10週）

	今週		1週前		2週前		3週前		4週前		5週前		6週前		7週前	
	第10週		第9週		第8週		第7週		第6週		第5週		第4週		第3週	
	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況	定当	状況
高知県全域	10.00	○	14.73	○	24.02	○	33.67	△	41.63	△	50.60	△	39.94	△	28.75	○
安芸	1.50	-	3.75	-	7.25	-	14.50	○	26.75	○	26.25	○	32.00	△	21.00	○
中央東	6.64	-	9.45	-	16.00	○	30.73	△	37.82	△	34.91	△	36.27	△	24.91	○
高知市	9.13	-	15.44	○	28.38	○	39.31	△	52.06	△	67.44	△	48.88	△	31.00	△
中央西	11.40	○	20.00	○	28.00	○	40.80	△	52.40	△	69.00	△	40.80	△	28.40	○
須崎	8.50	-	18.50	○	40.75	△	37.00	△	37.25	△	38.25	△	21.75	○	13.50	○
幡多	20.50	○	20.88	○	23.88	○	29.88	○	28.88	○	45.38	△	39.63	△	41.25	△

注意報値：○（10以上30未満） 警報値：△（30以上）

学校等における集団発生

※感染症情報収集システム

保健所		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計
休校	第10週	0	0	0	0	0	0	0
	累計	3	0	0	1	3	1	8
学年閉鎖	第10週	0	0	0	0	0	1	1
	累計	11	5	17	5	12	13	63
学級閉鎖	第10週	0	0	0	0	0	0	0
	累計	3	3	66	4	4	6	86

インフルエンザの飛沫感染対策【咳エチケット】

インフルエンザの主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生する水滴（飛沫）による飛沫感染であることから、感染予防のため以下の咳エチケットに心がけてください。

- （1）咳・くしゃみが出たらマスクをしましょう。
- （2）鼻汁・痰などを含んだティッシュはフタつきのゴミ箱に捨てましょう。
- （3）咳・くしゃみをおさえた手、鼻をかんだ手は直ちに洗いましょう。
- （4）咳をしている人にマスクの着用をお願いしましょう。
- （5）マスクの装着は説明書を読んで、正しく着用しましょう。

- 飛沫感染対策ではマスクは重要です。特に感染者がマスクをすることが、感染の拡散を抑える効果が高いと言われています。

●厚生労働省 「平成28年度今冬のインフルエンザ総合対策について」
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>

●厚生労働省 「平成28年度インフルエンザ Q&A」
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html>

○百日咳に気を付けて！

高知県全域及び高知市、中央東で注意報値である0.10を超えています。

定点医療機関当たりの報告数は第9週の0.03から第10週は0.10と急増しています。高知市、中央東で急増し注意報値を超えています。

病原体検出情報では第10週に搬入された検体から *Bordetella pertussis* が1例検出されています。

百日咳は、感染力が強く、軽症でも菌の排出があるため、注意が必要です。

特に生後6ヶ月未満の乳児では無呼吸発作等、重篤になる場合もあるので、予防接種をしていない新生児、乳児がいる場合は特に感染に対する注意が必要です。

予防対策は予防接種、うがい、手洗い、咳エチケットです。

感染予防のためにワクチン接種をお勧めします。ワクチンは生後3ヶ月から接種可能なので、かかりつけ医と相談し、出来るだけ早く受けておくことをお勧めします。

○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

幡多で注意報値である4.00を超えています。

定点医療機関からの報告数は第9週の2.23から第10週では2.93と増加しています。幡多、高知市、須崎で増加し、幡多では注意報値を超えています。

定点医療機関からのホット情報では9例の報告がありました。

感染症情報収集システム※でも12例の報告があることから、引き続き注意が必要です。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことによる飛まつ感染、あるいは、細菌が付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染が主な感染経路です。

乳幼児では咽頭炎、年長児や成人、特に妊婦では扁桃炎が現れ重症化することもあるため、うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

○流行性耳下腺炎に気を付けて！

須崎で注意報値である3.00を超えています。

定点医療機関当たりの報告数は第9週0.00から第10週は0.33と急増しています。中央東以外の全ての地域で急増し、須崎では注意報値を超えています。

流行性耳下腺炎は、3～6歳の小児に多い感染症で、耳の下やあごの下の腫れと痛みが特徴です。通常、1～2週間で軽快しますが、まれに無菌性髄膜炎、難聴、精巣炎等の合併症を起こすことがあります。また、感染しても症状が現れない不顕性感染が30%程度あるとされています。

感染力はとて強く、咳等のしぶきによる飛沫感染と唾液が付着した物への接触等による接触感染があります。予防対策としては、手洗い、うがいの励行に加えて、任意による予防接種がありますので、かかりつけ医療機関にお尋ねください。

○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第9週の0.75から第10週は0.25と急減しています。

定点医療機関からのホット情報は2例、感染症情報収集システム※は6例と以前に比べると報告数は減少してはいますが、引き続き注意が必要です。

感染経路は患者の咳のしぶきを吸いこんだり、患者と身近で接触したりすることにより感染すると言われています。保育園や幼稚園、学校、あるいは家庭内等での伝播がみられます。

予防対策としては、手洗いと咳エチケットです。

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第9週の5.37から第10週では4.47と減少しています。県全域から報告があり、須崎で増加しています。

定点医療機関からのホット情報でノロウイルス 2 例、ロタウイルス 2 例の報告があり、病原性大腸菌 O118 腸炎 1 例、病原性大腸菌 O25 腸炎 1 例、キャンピロ 1 例、サルモネラ (O-7 群) 腸炎 1 例に加えて、胃腸炎が増えてきているとの報告もあります。感染症情報収集システム※でも 29 例の報告があることから、今後も引き続き注意が必要です。

また、病原体検出情報では第 9 週に搬入された検体で幡多から Cocksackievirus B1 が 1 件検出されています。

乳幼児や高齢者、体力の低下している方は下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は 1 週間以内に回復しますが、症状消失後も 1 週間程度、長いときには 1 ヶ月程度ウイルスの排泄が続くことがあります。

感染経路は、病原体が付着した手で口に触れることによる感染（接触感染）、汚染された食品を食べることによる感染（経口感染）があります。

予防には手洗いが有効です。帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。

便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用方法を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

調理をする場合には、中心部まで十分に加熱しましょう。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関する Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●厚生労働省「ノロウイルス等の食中毒予防のための適切な手洗い（動画）」

<https://www.youtube.com/watch?v=z7ifN95YVdM&feature=youtu.be>

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

※ 感染症情報収集システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は比較的大型（吸血前で 3～4mm）のマダニが、つつが虫病はツツガムシというわずか 0.3mm ほどのダニの幼虫が媒介する感染症です。

全てのマダニやツツガムシが病原体を持っているわけではありませんが、これらのダニに咬まれないようにすることが感染の予防になりますので引き続き、注意が必要です。

予防するためのワクチン等はありません。マダニやツツガムシは野外に生息しています。

暖かくなるとダニの活動が活発になり、人も野外での活動が多くなることから、マダニ等が媒介する感染症のリスクが高まります。

野山や畑、草むら等に出かける時には長袖・長ズボンを着用し、シャツの裾はズボンの中に入れ、ズボンの裾は靴下や長靴の中に入れる等、肌の露出を少なくし、ダニ用の忌避剤を使用する等して、効果的な対策を自ら取ることが大切です。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～2 週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。また受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

●高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

●高知県衛生研究所 マダニによる感染症の注意喚起パンフレットを作成しました。

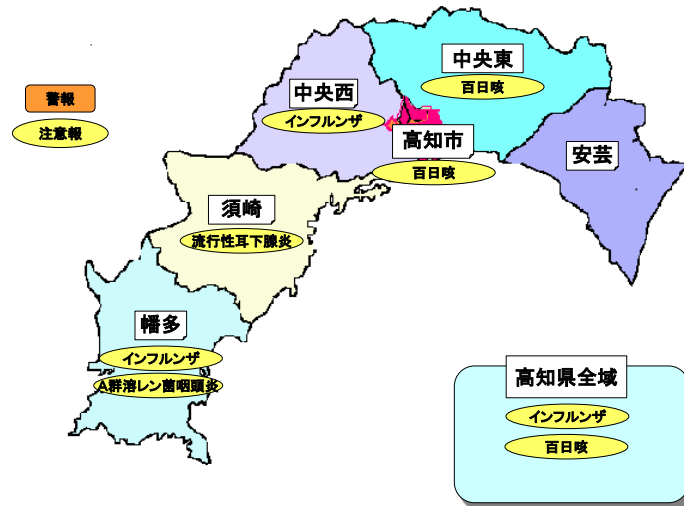
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2016061300063.html>

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減
 10週（3月6日～3月12日）

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
インフルエンザ	↘	10.00	須崎、安芸で急減、中央西、高知市、中央東で減少しましたが、県全域と幡多、中央西では注意報値を超えています。
感染性胃腸炎	↘	4.47	須崎で増加しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	2.93	幡多、高知市、須崎で増加し、幡多では注意報値を超えています。
突発性発疹	↘	0.33	中央西で急増しています。
流行性耳下腺炎	↑	0.33	須崎、安芸、中央西、幡多、高知市で急増し、須崎では注意報値を超えています。

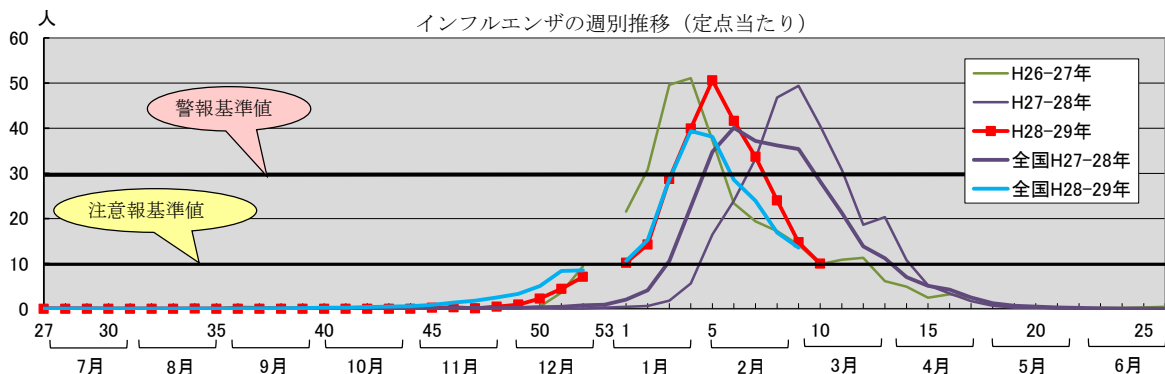
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

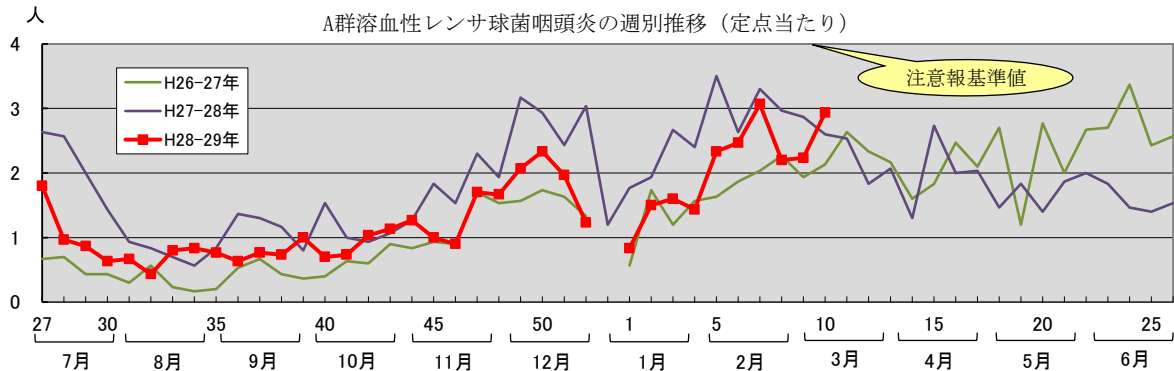
○インフルエンザ 第10週：10.00（注意報値：10.00 警報値：30.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 10.00（前週：14.73）と減少しています。須崎 8.50（前週：18.50）安芸 1.50（前週：3.75）で急減、中央西 11.40（前週：20.00）高知市 9.13（前週：15.44）中央東 6.64（前週：9.45）減少しましたが、県全域と幡多 20.50（前週：20.88）、中央西では注意報値を超えています。



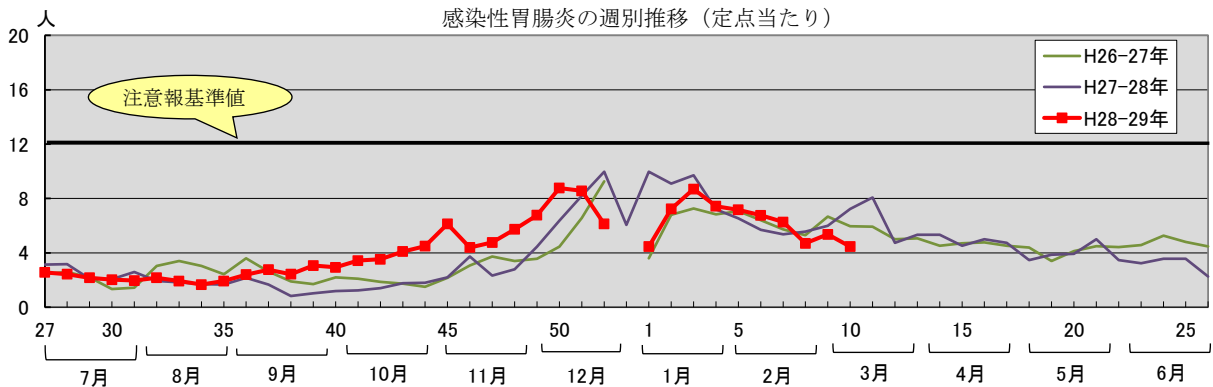
○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第10週：2.93 (注意報値：4.00 警報値：8.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 2.93 (前週：2.23) と増加しています。幡多 7.80 (前週：4.60) 高知市 3.82 (前週：2.82) 須崎 1.00 (前週：0.00) で増加し、幡多では注意報値を超えています。



○感染性胃腸炎 第10週：4.47 (注意報値：12.00 警報値：20.00)

定点医療機関からの報告数は定点当たり 4.47 (前週：5.37) と減少しています。須崎 2.50 (前週：1.50) で増加しています。



※グラフの途切れについて

H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。

そのため、H26-H27年とH28-H29年のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
10	百日咳 疑い	2ヶ月	男	中央東	<i>Bordetella pertussis</i>

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
9	感染性胃腸炎	4ヶ月	男	幡多	Coxsackievirus B1
9	ウイルス性敗血症	1ヶ月	女	幡多	Echovirus 3
9	咽頭結膜熱	1	女	幡多	Echovirus 9

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	16	70歳代女	中央西
5類	アメーバ赤痢	1	1	60歳代男	高知市

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報	
中央東	あけぼの小児クリニック	ロタウイルス 1例 (2歳女)	
	野市中央病院小児科	マイコプラズマ肺炎 1例 (1歳女)	
	早明浦病院小児科	頭ジラミ 1例 (3歳) ノロウイルス感染症 1例 (10歳女) E.coli O-118 検出 1例 (8歳男)	
		A型インフルエンザ 13例 (1ヶ月1人、1歳1人、4歳6人、6・8歳各1人、12～13歳3人) 溶連菌感染症 1例	
高知市	けら小児科・アレルギー科	病原性大腸菌 O-25 腸炎 1例 (4歳女) サルモネラ (O-7群) 腸炎 1例 (1歳女) 百日咳 1例 (12歳女: PT-IgG 108EU/ml)	
		高知医療センター小児科	ヒトメタニューモウイルス 2例 (2歳男、4歳女) アデノウイルス 1例 (7ヶ月男)
		三愛病院小児科	インフルエンザウイルス 3例 (1歳女、12歳男、22歳女) ヒトメタニューモウイルス 3例 (6ヶ月男、7ヶ月女、2歳女)
	福井小児科・内科・循環器科	インフルエンザ A型 9例、B型 1例、ワクチン接種済 3例 溶連菌感染症 8例 胃腸炎が多い	
		細木病院小児科	キャンピロ 1例 (5歳女) ノロ 1例 (13歳女)
	中央西	くぼたこどもクリニック	インフルエンザ A (8歳男: 須崎市) ムンプス 1例 (6歳男: 久礼)
		日高クリニック	マイコプラズマ肺炎 1例 (2歳女)
石黒小児科		インフルエンザ A型 4例 インフルエンザ A型 B型同時 1例	
須崎	もりはた小児科	感染性胃腸炎 1例 (5歳女: ロタ陽性) インフルエンザ 11例 (全部 A型)	
幡多	さたけ小児科	hMPV 2例 (2歳男女) ヘルペス歯肉口内炎 1例 (3歳男) インフルエンザ 45例 (全て A型)	
		幡多けんみん病院小児科	hMPV 1例 (5歳男)

★全国情報

第8号 (2月20日～2月26日)

1類感染症: 報告なし

2類感染症: 結核342例

3類感染症: 細菌性赤痢1例、腸管出血性大腸菌感染症11例、腸チフス1例、パラチフス2例

4類感染症: E型肝炎9例、A型肝炎5例、デング熱1例、マラリア1例、レジオネラ症15例、レプトスピラ症1例

5類感染症: アメーバ赤痢13例、ウイルス性肝炎3例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症17例、急性脳炎6例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症11例、後天性免疫不全症候群20例、侵襲性インフルエンザ菌感染症7例、侵襲性肺炎球菌感染症39例、水痘 (入院例に限る) 4例、梅毒75例、麻しん5例

報告遅れ: 細菌性赤痢1例、E型肝炎2例、エキノコックス症1例、つつが虫病1例、デング熱1例、レジオネラ症3例、レプトスピラ症2例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症16例、急性脳炎11例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症2例、水痘 (入院例に限る) 1例、梅毒37例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、麻しん1例

※第11週 (3月13日から3月19日) の週報は3月20日 (月: 祝日) の影響で報告が遅れるために3月23日 (木) に発行します。

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第10週 平成29年3月6日(月)～平成29年3月12日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(9週)	高知県(10週末累計) H29/1/2～H29/3/12	全国(9週末累計) H29/1/2～H29/3/5
インフルエンザ	インフルエンザ		6	73	146	57	34	164	480 (10.00)	707 (14.73)	67,273 (13.55)	12,854 (267.79)	1,067,478 (215.22)
小児科	咽頭結核熱				2			3	5 (0.17)	9 (0.30)	1,257 (0.40)	60 (2.00)	9,482 (3.00)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			3	42	2	2	39	88 (2.93)	67 (2.23)	7,685 (2.43)	618 (20.60)	58,664 (18.55)
	感染性胃腸炎		11	28	58	7	5	25	134 (4.47)	161 (5.37)	17,113 (5.40)	1,877 (62.57)	164,938 (52.15)
	水痘		1	2	4				7 (0.23)	6 (0.20)	1,035 (0.33)	115 (3.83)	10,249 (3.24)
	手足口病				1				1 (0.03)	()	333 (0.11)	15 (0.50)	4,317 (1.36)
	伝染性紅斑			1	1			1	3 (0.10)	6 (0.20)	237 (0.07)	46 (1.53)	2,382 (0.75)
	突発性発疹			2	5	2		1	10 (0.33)	14 (0.47)	1,186 (0.37)	83 (2.77)	10,359 (3.28)
	百日咳			1	2				3 (0.10)	1 (0.03)	16 (0.01)	11 (0.37)	195 (0.06)
	ヘルパンギーナ							1	1 (0.03)	()	59 (0.02)	2 (0.07)	680 (0.21)
	流行性耳下腺炎		1		1	1	6	1	10 (0.33)	()	1,927 (0.61)	73 (2.43)	18,772 (5.93)
RSウイルス感染症			1	4	3		1	9 (0.30)	15 (0.50)	695 (0.22)	167 (5.57)	8,973 (2.84)	
眼科	急性出血性結膜炎								()	()	3 ()	()	59 (0.09)
	流行性角結膜炎								()	()	319 (0.46)	5 (1.67)	3,087 (4.45)
基幹	細菌性髄膜炎								()	()	9 (0.02)	1 (0.13)	76 (0.16)
	無菌性髄膜炎								()	()	14 (0.03)	2 (0.25)	135 (0.28)
	マイコプラズマ肺炎			2					2 (0.25)	6 (0.75)	159 (0.34)	38 (4.75)	2,184 (4.61)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				2				2 (0.25)	()	3 (0.01)	4 (0.50)	58 (0.12)
	感染性胃腸炎								()	()	151 (0.32)	6 (0.75)	575 (1.21)
計 (小児科定点当たり人数)		19 (8.00)	113 (12.07)	268 (20.02)	72 (16.40)	47 (15.00)	236 (34.90)	755 (19.02)			99,474	15,977 (370.03)	1,362,663
前週 (小児科定点当たり人数)		30 (11.25)	169 (18.45)	369 (26.17)	118 (26.00)	77 (20.00)	229 (33.28)		992 (24.03)				

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	計	前週	全国(9週)	高知県(10週末累計) H29/1/2～H29/3/12	全国(9週末累計) H29/1/2～H29/3/5
インフルエンザ	インフルエンザ		1.50	6.64	9.13	11.40	8.50	20.50	10.00	14.73	13.55	267.79	215.22
小児科	咽頭結核熱				0.18			0.60	0.17	0.30	0.40	2.00	3.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.43	3.82	0.67	1.00	7.80	2.93	2.23	2.43	20.60	18.55
	感染性胃腸炎		5.50	4.00	5.27	2.33	2.50	5.00	4.47	5.37	5.40	62.57	52.15
	水痘		0.50	0.29	0.36				0.23	0.20	0.33	3.83	3.24
	手足口病				0.09				0.03		0.11	0.50	1.36
	伝染性紅斑			0.14	0.09			0.20	0.10	0.20	0.07	1.53	0.75
	突発性発疹			0.29	0.45	0.67		0.20	0.33	0.47	0.37	2.77	3.28
	百日咳			0.14	0.18				0.10	0.03	0.01	0.37	0.06
	ヘルパンギーナ							0.20	0.03		0.02	0.07	0.21
	流行性耳下腺炎		0.50		0.09	0.33	3.00	0.20	0.33		0.61	2.43	5.93
RSウイルス感染症			0.14	0.36	1.00		0.20	0.30	0.50	0.22	5.57	2.84	
眼科	急性出血性結膜炎												0.09
	流行性角結膜炎										0.46	1.67	4.45
基幹	細菌性髄膜炎										0.02	0.13	0.16
	無菌性髄膜炎										0.03	0.25	0.28
	マイコプラズマ肺炎			2.00					0.25	0.75	0.34	4.75	4.61
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)				0.40				0.25		0.01	0.50	0.12
	感染性胃腸炎										0.32	0.75	1.21
計 (小児科定点当たり人数)		8.00	12.07	20.02	16.40	15.00	34.90	19.02			370.03		
前週 (小児科定点当たり人数)		11.25	18.45	26.17	26.00	20.00	33.28		24.03				

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎2階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869